

さいたま 来ぶらり通信

Contents

わがまちSai発見..... 1,2
電子書籍サービスが本格稼働しました..... 4

本棚ぶらり シェイクスピア..... 3



「さいたまトリエンナーレ2016連携プロジェクト」の1つとして、12月7日、さいたまスーパーアリーナで「1万人のゴールド・シアター2016」が上演されます。一般公募による60歳以上の出演者と、創設10年を迎える「さいたまゴールド・シアター」メンバーによる大群集劇です。企画・原案は、日本を代表する演出家・蜷川幸雄。演出も手掛ける予定でしたが、5月12日に惜しまれつつこの世を去りました。

シェイクスピアの戯曲全37作品すべてを上演する「彩の国シェイクスピア・シリーズ」をはじめ、さいたまの地で演劇文化を育み続けた蜷川幸雄の功績を、本でたどります

ゴールドとネクスト2つの「さいたま」劇団

演出家になって2、3年経った頃から、おじいさんおばあさんの劇団をつくりたくて仕方がなかったんですよ。

(『信じるチカラ』小松成美／著 ポプラ社 2007年)

そうだよ、俺はゴールドがずっと残るように道筋を作っておきたいんだよ。

(『蜷川幸雄とシェイクスピア』秋島百合子著 株式会社KADOKAWA 2015年)

さいたまゴールド・シアターは、2006年に発足した、55歳以上の男女による劇団です。蜷川は1,266人の応募者を書類選考ではなく、全員を直接、オーディションで審査しました。



▲1万人のゴールド・シアター2016 (彩の国さいたま芸術劇場)



◀『蜷川幸雄と「さいたまゴールド・シアター」の500日 平均年齢67歳の挑戦』

はしだ よしのり 橋田欣典ほか／著 平凡社新書 2007年

オーディションから旗揚げ公演までのドキュメントを新聞記者らが追う

『八十六歳 私の演劇人生』▶

しげもと えつこ 重本恵津子／著 論創社 2013年

劇団最高齢の女優による手記



◀『我らに光を さいたまゴールド・シアター 蜷川幸雄と高齢者俳優41人の挑戦』

とくなが きょうこ 徳永京子／編著 河出書房新社 2013年

劇団員41人へのインタビュー集

さいたまネクスト・シアターは、「無名の若者にチャンスを与えるのも公共劇場の役割」と言う蜷川が2009年に旗揚げした、次世代を担う若い俳優達の劇団です。同じくオーディションで、1,225人の応募者から44人が選ばれました。

2015年4月初演の『リチャード二世』は、ネクスト・ゴールドの合同公演です。車いすに乗った老人達が突如、それぞれ若者達とペアを組みタンゴを踊りだす印象的なシーンは、蜷川自身の車いす体験から発想を得たそうです。2016年4月にはルーマニアの国際シェイクスピア・フェスティバルでオープニング公演として上演されました。

彩の国シェイクスピア・シリーズ (SSS)

1998年、彩の国さいたま芸術劇場で、シェイクスピアの全37作品を上演する壮大な計画、SSSがスタートしました。当時劇場の館長であった諸井誠もろい まこと氏に口説かれ、この計画を担う「彩の国シェイクスピア・カンパニー (SSC)」の芸術監督に就任した蜷川は、2016年5月のSSC第32弾『尺には尺を』までシリーズのほとんどの作品を演出しています。

SSS第4弾1999年2月『リア王』は、イギリス演劇の最高峰であるロイヤル・シェイクスピア・カンパニーが来日し、稽古も芸術劇場で行うという異色の公演。日本人俳優としてただ一人、道化役の真田広之さなだ ひろゆきが参加しました。

『夏の夜の夢』などの喜劇では、シェイクスピアの時代と同様、すべての役を俳優が演じる趣向「オールメール・シリーズ」で関心呼びました。

(参考:『蜷川幸雄の劇世界』せん だ あきひこ 扇田昭彦/著 朝日新聞出版 2010年)

上演台本のもととなる翻訳は主に『シェイクスピア全集』(ちくま文庫 1996年~)でシェイクスピア全作品の翻訳に取り組んでいる松岡和子まつおかかずこによるものです。余談ですが、松岡からこの全集の表紙絵を依頼された安野光雅あんの みつまさは、交換条件として、自身が雑誌に連載するシェイクスピア作品を題材とした絵に松岡のエッセイを要求しました。その連載をまとめたのが『繪本 シェイクスピア劇場』(安野光雅画 松岡和子文 講談社 1998年)です。この本の扉絵は、安野が1998年ロンドンで鑑賞した松岡訳、蜷川演出による『ハムレット』の1場面を描いたものです。



◀『繪本 シェイクスピア劇場』
安野光雅/画 松岡和子/文
講談社 1998年

彩の国さいたま芸術劇場

この劇場は素晴らしい劇場だった。芸術表現上の自由さの保障、劇場機構の完成度、劇場で働く人々の創造することに対する深い理解、もちろんそれら全てを支えているのは、諸井氏をはじめとする埼玉県の人々の意志である。ぼくはしあわせな拠点をもつ演出家のひとりとなった。

(『Note 増補 1969~2001』蜷川幸雄/著 河出書房新社 2002年)

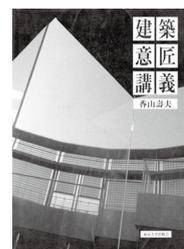
彩の国さいたま芸術劇場は、1994年10月15日、さいたま市中央区(当時の与野市)に開館しました。



▲JR与野町駅から劇場を結ぶ「駅前公園」「たつみ通り」は、蜷川や俳優たちの手形レリーフや、シェイクスピア作品の有名な台詞をデザインした埋め込み照明が並ぶ「アートストリート」となっています。

香山壽夫こうやまひさお建築研究所の設計により、「創造する劇場」「多彩」という理念にもとづいて、さまざまなジャンルのイベントに対応できる4種類のホールが、ロトンダと呼ばれる円形部分の周囲に配置された美しい劇場です。

奇しくも10月15日は蜷川の誕生日。2014年10月15日、開館20周年記念日には、大稽古場が「NINAGAWA STUDIO」と名付けられました。2006年からは蜷川が劇場の芸術監督をつとめています。



◀『建築意匠講義』
香山壽夫/著 東京大学出版会 1996年
表紙写真は、光庭から見上げたロトンダ

あと5作を残すのみとなったSSSの完結を蜷川自身の演出で観ることがかなわないのは本当に残念ですが、彼の功績と遺志はきっとここさいたまの地を拠点に未来へ受け継がれていくことでしょう。(文中敬称略)